

Ⅲ 重点プロジェクトの実施

区の地域特性や環境の課題などを踏まえ、環境基本計画の目標を達成する上で重点的かつ計画的な展開を図っていく必要のある主要なテーマを重点プロジェクトとして推進しています。

テーマ1 「風の道」づくり

(本編 P.73)

自然と共生するまちをつくる方策として、みどりを増やし、水環境の保全や回復を高めることによって、「風の道」づくりを推進します。

● 目黒川とその周辺地域の気象観測（H19～22）から、以下のことが確認されました

○目黒川では、夏期日中に東京湾方向からの遡上風が卓越しており、その遡上する涼風が市街地に流入することにより周辺市街地の気温上昇を抑制しています。

○目黒川及び川沿いの桜並木の冷却効果により、目黒川沿いは周辺に比べて気温の上昇が抑えられています。

都市における水とみどりの貴重なオープンスペースである目黒川は、人々に潤いとやすらぎを与え、多様な生物が生息する場としての役割を担っているとともに、夏期の過密都市における熱環境を改善する社会基盤としても重要な役割を担っています。

➤ 5年間の成果・課題とこれからの取組み

◎みどりを増やし、水環境の保全や回復を高めることで「風の道づくり」を推進してきました。平成19年度から平成21年度にかけて行った気象観測の結果から、目黒川及び川沿いの桜並木の冷却効果により、気温上昇が抑えられていることがわかりました。

◎今後は、生物多様性の確保を重視し、ヒートアイランド対策としての風の道づくりを発展させ、核となる大規模なみどりの保全や目黒川の水質改善、小さなみどりや水場等の生き物が生息できる場所（ビオトープ的地点）の創出を図ります。

目黒川の冷風・冷却効果

涼風の
通り道

過密都市の
冷却源



＜真夏のクールスポット：目黒川＞

テーマ2 地域のグリーン化

(本編 P.74)

地域のグリーン化を推進するため、区民や事業者などの環境に対する意識を高め、環境保全に向けた具体的な行動につながっていくよう、区は積極的に支援します。

区民、事業者がそれぞれの立場で、環境への負荷を低減する活動を継続して実施するためのしくみである、目黒区独自の環境配慮行動プログラム「めぐろグリーンアクションプログラム（学校版・家庭版・事業所版）」を構築し、普及に努めました。

平成23年度の事業所版の新規認定件数は、1件でした。

● 学校版めぐろグリーンアクションプログラム

学校版については、特に優れた取り組みをしている学校について、表彰を行いました。



◀めぐろグリーンアクションプログラム表彰式▶

<表彰校一覧>

区分	小学校	中学校
優良表彰校	烏森	第四
	宮前	第七
部門表彰校	菅刈	第九
	油面	—
	駒場	—
	東山	—

優良表彰：総合的に優れた取り組みをしている学校
部門表彰：積極性・独自性・実績等、各項目で特に優れた取り組みをしている学校

● 家庭版めぐろグリーンアクションプログラム

家庭で取り組む環境配慮行動プログラムです。冷暖房の適切な温度設定等簡単に取り組める1stステージから始まり、CO₂排出削減に取り組む3rdステージまでレベルアップを図る普及プログラム『だれか』ではなく「わたし」から大作戦』があります。

平成23年度は、参加登録数が144世帯、3rdステージまでの到達が3世帯でした。



<チャレンジシート>

● 事業所版めぐろグリーンアクションプログラム

環境に配慮した行動を行う区内の事業所を応援するプログラムです。プログラムに沿って6か月以上取り組むと、「環境に配慮した事業所」として認定されます。認定した事業所はホームページで取り組み等を紹介しています

(ホームページ URL : <http://www.meguro-ems.net/megapro/>)

株式会社 スミカ・クリエイト

平成20年12月にプログラム認定を受ける。

【取り組み例】

- ① 各店舗・駅周辺の清掃活動（夏場は打ち水を実施）
- ② 使用済み切手・ボトルキャップの回収
- ③ エアコンの適切な温度調整やクールビズの実施
- ④ 電気のコまめな消灯
- ⑤ ハイブリッドカーの有効活用

株式会社 松坂電機製作所

平成17年12月にプログラム認定を受ける。

【取り組み例】

- ① 紙のリデュース・リサイクルによる紙ごみの削減
- ② 自主消灯・エアコンの設定温度の調整等による節電
- ③ 3Rの実行
 - ・プリントアウトの最少化。弁当の割り箸を使用しない。
 - ・裏紙使用。シュレッダーごみを梱包材として再利用。
 - ・ダンボール・雑誌等は回収業者に資源ごみとして出す。

参加登録すると次のような特典があります

- 「目黒という地域の環境改善に貢献している事業所」という評価と充実感
- メルマガへの登録による環境関連の情報や講演会の情報等の提供
- ホームページでの環境配慮行動を実施する事業所としての紹介 等

➤ 5年間の成果・課題とこれからの取組み

- ◎「めぐろグリーンアクションプログラム」を中心に、あらゆる主体が「地域のグリーン化」に取り組んできました。しかし、東日本大震災の影響によって、電力需給バランスは悪化し、枯渇性エネルギーに依存したライフスタイルそのものの見直しが迫られています。
- ◎「節電」をはじめ、環境にやさしい行動を賢く選択する暮らし方を「めぐろスマートライフ」と名付け、楽しみながらエコに取り組む気運を高めるしくみ・場をつくります。

テーマ3

地球温暖化対策の推進

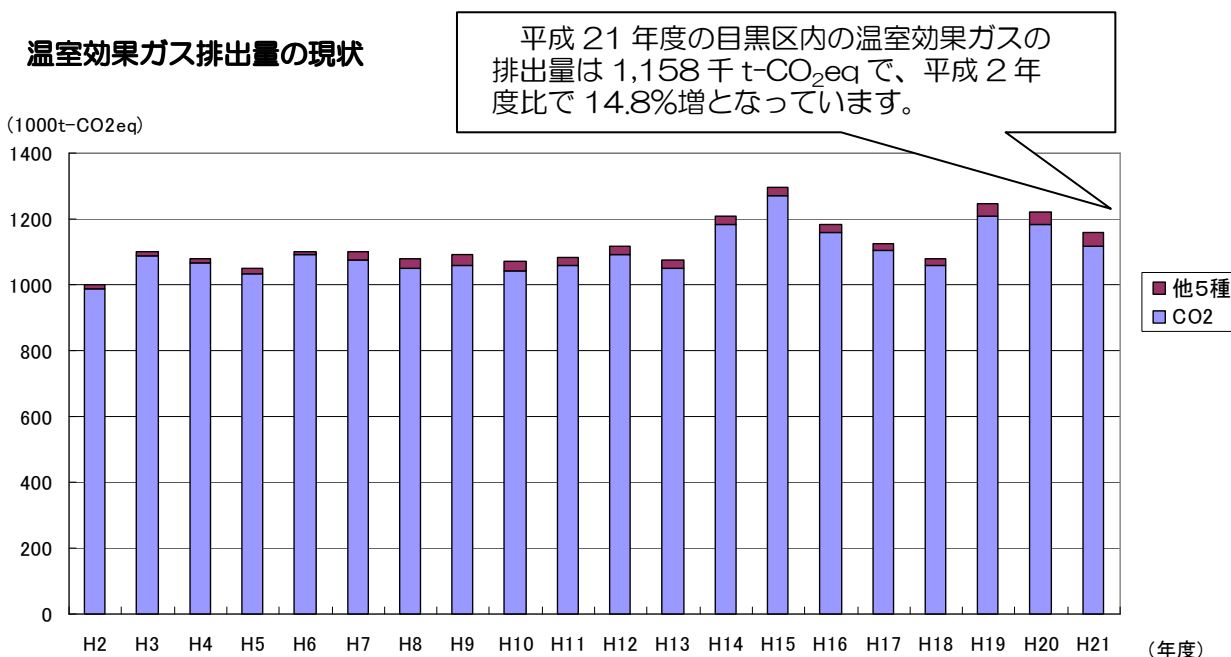
(本編P.79)

京都議定書目標達成計画や、震災後の省エネルギー・新エネルギー導入へ向けた動きも勘案しつつ、目黒区の自然的社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出抑制等のための総合的かつ計画的な施策を推進します。

特に、区内で排出量の多い、家庭部門、事業所部門、自動車部門における取組みを重点的に進めていきます。

■「目黒区地球温暖化対策地域推進計画」

平成20年3月に策定した「目黒区地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、温室効果ガスの排出抑制に向けた施策を展開しました。



➤ 5年間の成果・課題とこれからの取組み

- ◎「目黒区地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、家庭、事業所、自動車の3部門を重点部門として温室効果ガスの削減に取り組んできました。平成24年度の計画期間終了を見据え、今後は中長期を見据えた地球温暖化対策の推進への取組みを進めます。
- ◎省エネルギー・再生可能エネルギーを導入した住環境の整備等、低炭素社会づくりの基準となるような施策を展開します。

IV 目黒区環境マネジメントシステム

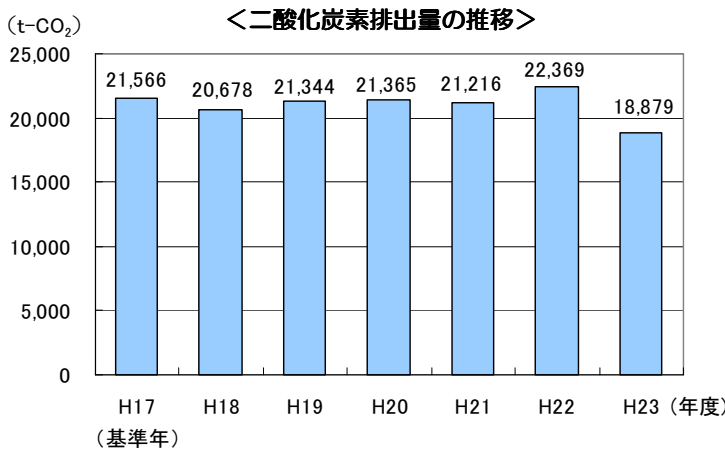
(本編 P.85~91)

区のすべての施設を対象とした実行計画として「目黒区地球温暖化対策推進実行計画」を平成 21 年 4 月に策定しました。総合庁舎、庁外施設等を含めたすべての区の施設を対象とし、区の事務事業に伴い排出される温室効果ガスの排出量を、平成 17 年度を基準として、目標年度の平成 25 年度において 6%以上削減することを目標としています。

■ 平成 23 年度の取組み結果

● 温室効果ガス（二酸化炭素）排出量を削減

平成 23 年度の総排出量は 18,879 t-CO₂ であり、対平成 22 年度比で-15.6%、対基準年度比では-12.5%でした。排出源別に見ると、電気が全体の約 60%を占めています。このことから、夏期・冬期の節電対策が排出量削減に大きく寄与したことがうかがえます。



<二酸化炭素排出量の内訳>

(単位：t-CO₂)

区分	平成 17 年度	平成 23 年度		
	二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量	構成割合	
排出量	21,566	18,879	100.0	
内訳	電気	13,880	11,974	63.4
	都市ガス	6,727	6,044	32.0
	水道	145	146	0.8
	下水道	398	401	2.1
	化石燃料	394	296	1.6
	その他	22	19	0.1

- * 化石燃料：ガソリン、LPG、CNG、軽油、灯油、重油など
- * その他：自動車走行距離などから算出したメタンや一酸化二窒素を二酸化炭素に換算
- * 排出係数は、東京都地球温暖化対策指針（平成 17 年 4 月 1 日）によります。
- * 数値（t-CO₂ 及び構成比率）は区分ごとに四捨五入しています。

● 環境負荷の低減

★ ごみの排出量と紙の使用量

平成 23 年度は、平成 22 年度と比較するとごみの排出量、紙の使用量がともに増加しました。ごみの排出量別に見ると、燃やすごみが増加傾向にあります。

<ごみの排出量>

(単位：t)

区分	平成 22 年度	平成 23 年度	対前年度比
排出量	1,108	1,218	+10%
内訳	燃やすごみ	1,031	+11%
	燃やさないごみ	144	+3%
	資源	34	+12%

<紙の使用量>

(単位：万枚)

区分	平成 22 年度	平成 23 年度	対前年度比
用紙の購入量	4,197	4,517	+8%
外注印刷物	5,167	5,267	+2%

※A4 サイズに換算

※「ごみ排出」と「紙の使用量」は、平成 21 年度から平成 25 年度までの実行計画の計画期間において、毎年の使用量を前年度以下に減らしていきます。